

高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート(報告書)

令和 7 年 8 月

芦屋市こども福祉部福祉室高齢介護課

目次

I アンケートの実施について	3
II アンケートの前提となる市内のバス路線等の状況等について	4
III アンケート結果の回答集計と分析観点	8
IV アンケート回答者の内訳	
問 1 あなたの年齢(令和6年12月1日現在)は、以下のうちどれにあてはまりますか。1つだけ選んで数字に○をつけてください。(本アンケートは65歳以上の方を対象としています。65歳未満の方はお答えいただけません。ご了承ください)	11
問 2 あなたの性別は、以下のうちどれにあてはまりますか。1つだけ選んで数字に○をつけてください。	11
問 3 あなたは、現在どちらにお住まいですか。校区番号1～10から1つだけ選んで数字に○をつけてください。	12
問 8 あなたのバス利用回数について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。	13
V 分析の観点1 本事業は必要な事業なのか	
問 4 あなたの介護度について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。	15
問 5 外出することが介護予防につながると感じますか？1つだけ選んで数字に○をつけてください。	15
問 6 あなたが普段移動される際に利用される移動手段について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。	16
問 7 あなたの普段の外出頻度について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。	17
問 9 あなたがバスを利用して向かう外出先について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。	18
問 10 バス運賃助成事業の割引証の所有について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。	19

問 11 ア 割引証を所有することでの外出機会が増えたかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。.....20

問 11 イ 助成事業があることが免許の返納につながっているか、1つだけ選んで数字に○をつけてください。.....21

問 12 70歳になったらバス運賃助成事業の割引証を申請されるかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。.....21

VI 分析の観点2 本事業における市民の割引証所有に対する意識

問 13 あなたが割引証を申請しない理由について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。(複数回答可).....22

VII 分析の観点3 本事業を持続可能な事業とするには

問 14 バス運賃助成事業そのものについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 .25

問 15 外出促進による介護予防の観点から、助成する考え方にバス利用頻度を考慮すべきかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。27

問 16 阪急グランドパスについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。28

問 17 阪急グランドパス購入代金の助成をした場合、今よりあなた自身が外出する回数が増加するかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。29

問 18 阪急グランドパス購入代金の助成を施策として追加することについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。30

VIII 高齢者が充実させるべきと思う高齢者施策

問 19 あなたが充実させるべきと思う高齢者施策について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。32

IX まとめ 34

I アンケートの実施について

1 目的

高齢者施策、特に介護予防の観点から本助成事業が芦屋市民の皆さまにとって効果的な施策か、より高齢者の社会参加の機会を促進するためにはどうすれば良いかという視点をもって、利用実態等を把握するため。

2 実施方法

(1) 対象者

令和6年12月1日現在で65歳以上の者

(2) 無作為抽出者

令和6年11月1日現在住基登録者のうち、令和6年12月1日時点で65歳以上の者から1,500人を無作為で抽出しアンケートを実施。

その際、抽出者に偏りが出ないように、下記の500名×3分類で対象者を分けて抽出を実施(市で把握できている「阪急バス利用実績データ」より判断)

分類	対象	抽出者数
分類1	70歳以上の者のうち、 バス運賃助成事業の割引証利用者	500名
分類2	70歳以上の者のうち バス運賃助成事業の割引証未利用者	500名
分類3	65歳以上70歳未満の者	500名

(3) その他

より多くの声を聞くために、65歳以上の市民の方は全員回答できるように、市内5カ所の高齢者生活支援センター等に用紙を準備したほか、インターネットでも回答できるようにし、広報、市内掲示板等で周知を図る。

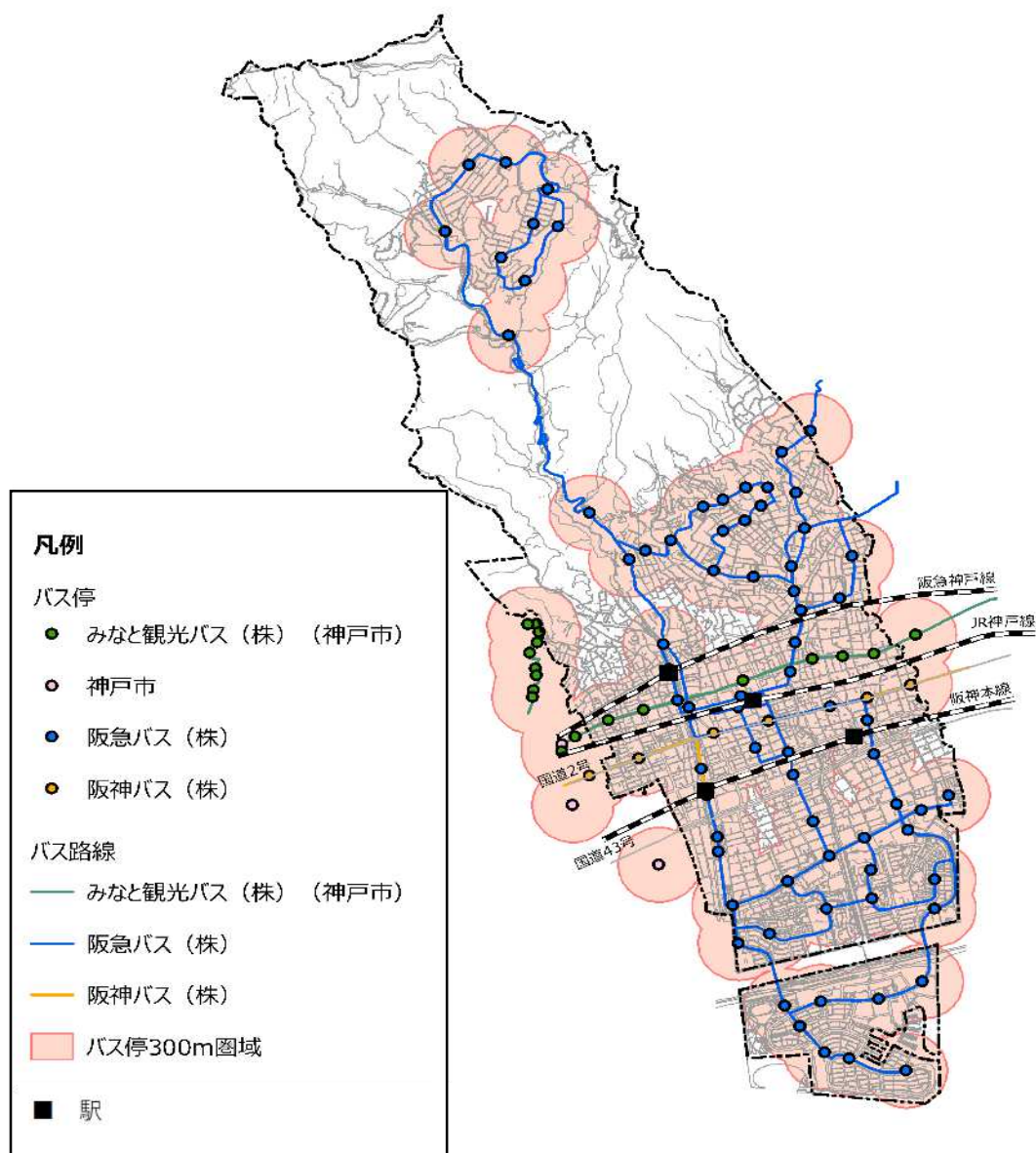
3 実施期間

令和6年12月2日(月)～令和7年1月10日(金)

Ⅱ アンケートの前提となる市内のバス路線等の状況等について

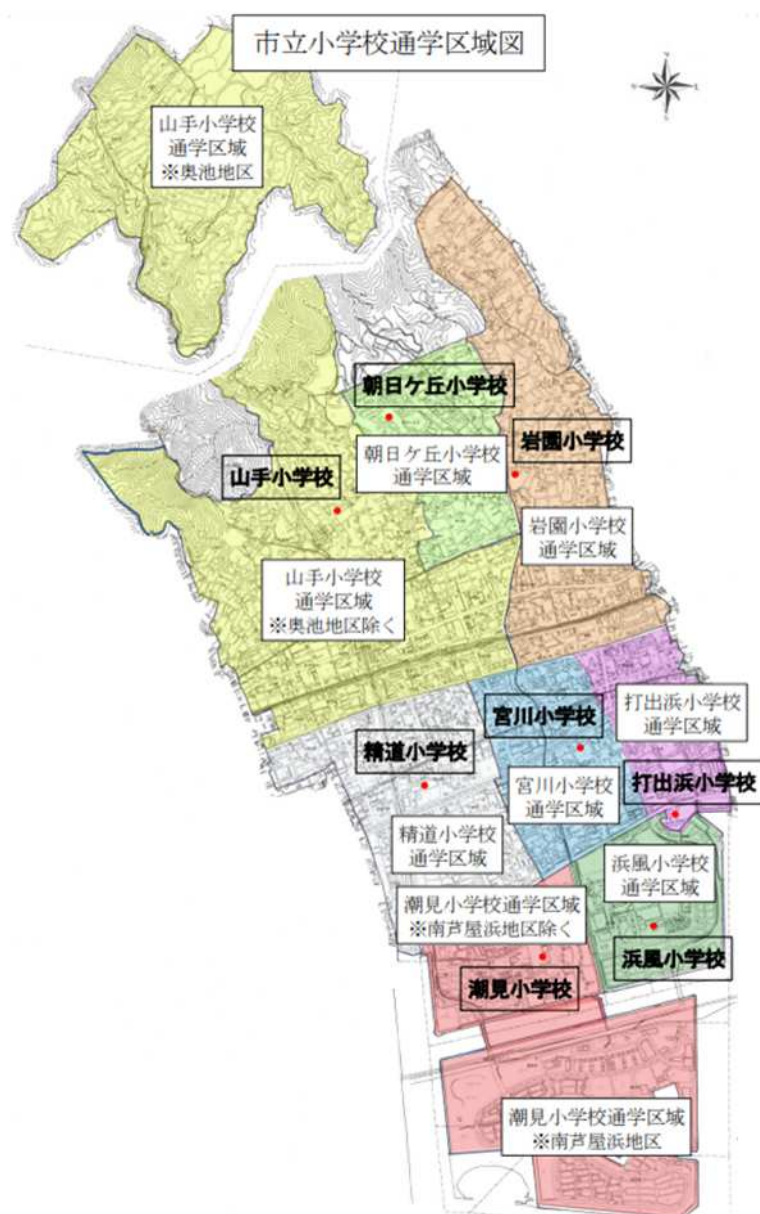
1 市内のバス路線について

芦屋市内では、阪急バス、阪神バス、みなと観光バスの3路線が運行しており、市内のほぼ全域で居住地から300mの範囲内にバス停がある。



2 市内の学校区について

アンケートの地域別の回答の区域は下記のとおりとする。



3 現行の事業について

(1) 事業概要

市内在住の70歳以上の希望者に対し、阪急バス、みなと観光バス、もしくは両方の割引証を発行している。乗車駅、降車駅の片方、もしくは両方が芦屋市内にあるバス停を利用した場合に運賃が半額になる。なお、利用者の多くが阪急バスの利用であり、阪神バスの乗車に関しては同事業自体を実施していない。

(2) 阪急バス乗車実績の推移（回）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用人数(人)※1	10,048	9,385	9,634	10,102	10,314
年間利用回数(回)	756,547	555,436	623,415	733,620	809,929
1人平均年間乗車回数(回)	75.2	59.1	64.7	72.6	78.5
70歳以上の人数(人)※2	21,018	21,768	22,224	22,567	22,740

※1…1回でも利用された方の人数

※2…各年度の3月末時点の人数

(3) 助成額総額の推移

現行事業は半額助成(10円未満切り捨て)のため、運賃が230円であれば助成額は110円となる。令和6年10月1日より運賃が240円に上昇したため、令和7年度は1億円以上の支出が見込まれる。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
助成額総額(円)	84,626,560	61,723,780	69,302,100	81,599,270	90,231,270
市内線運賃(円)※3	220円	220円	220円	220円	220円
市内線市助成額(円)※4	110円	110円	110円	110円	110円

※3…芦屋市内線の運賃 令和5年9月1日に230円に値上げ 令和6年10月1日より240円に値上げ

※4…半額助成のため、220円～230円の時は110円助成、令和6年10月1日より120円助成

(4) 運賃別利用回数実績

96%以上の方が市内線を利用している。

1回当たり助成額	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
120円以上(回)	12,943	8,082	9,740	11,581	13,527
110円(回)	742,221	546,419	612,608	720,720	794,636
100円以下(回)※5	1,383	935	1,067	1,319	1,766
計(回)	756,547	555,436	623,415	733,620	809,929

※5…助成額100円以下は奥池地区内のバス移動

4 市内の高齢者率(70歳以上)

令和6年11月末時点の高齢者率(70歳以上)は下記のとおりである。

	70 歳以上(人)	町人口(人)	高齢者率
1.奥池地区	436	1,273	34.2%
2.山手小学校区(奥池地区除く)	4,407	18,378	24.0%
3.岩園小学校区	2,966	13,179	22.5%
4.朝日ヶ丘小学校区	2,172	8,854	24.5%
5.精道小学校区	2,925	13,029	22.4%
6.宮川小学校区	2,346	11,647	20.1%
7.打出浜小学校区	2,224	9,442	23.6%
8.浜風小学校区	2,102	6,968	30.2%
9.潮見小学校区(南芦屋浜地区除く)	1,916	5,076	37.7%
10.南芦屋浜地区	1,535	6,208	24.7%
計	23,029	94,054	24.5%

Ⅲ アンケート結果の回答集計と分析観点

1 回答率

回答率は64.6%である。

対象	抽出数	回答数	回答率
無作為抽出者回答	1,500	969	64.6%

一般回答 573件

2 アンケートの回答集計

(1) 分析手法

アンケートの回答にあたっては、下記の表の3グループごとの集計、無作為抽出者全体の集計、一般回答の集計の計5集計を利用するが、設問により要介護度、居住地域、バス乗車回数等も加味して分析を行う。

なお、分析におけるグループ 1～3においては設問の回答に基づき行う。

グループ名	対象	当該グループと判断したアンケートの回答項目	回答者数
グループ1 (70歳以上・バス運賃助成事業利用者)	70歳以上の高齢者 バス運賃助成事業利用者	設問1で2～8かつ 設問8で1～8かつ 設問10で1～3 と回答した者	508名
グループ2 (70歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	70歳以上の高齢者 バス運賃助成事業未利用者	設問1で2～8と回答した中で グループ1に該当しない者	168名
グループ3 (65歳以上70歳未満)	65歳以上70歳未満のもの	設問1で1と回答した者	293名

※回答者の意思、認識に基づいた設問ごとの回答を根拠に分類しているため「阪急バス利用実績データ」を基にした無作為抽出時の人数と一部差が生じている。

例：高齢者バス運賃助成事業の割引証が IC カードを利用する方式であるため、他の IC カードの所有や阪急グラウンドバス等をもって割引証を所有していると回答されている可能性がある。

本アンケートは本事業を利用しバスに乗車されている実態をもとに分析するため、70歳以上で、割引証を所有していると認識されている方で、バスに乗車されている方をグループ1とする。

設問1で2～8・・・年齢が70歳以上と回答

設問8で1～8・・・バスを1年間に1度でも乗車していると回答

設問10で1～3・・・阪急バスもしくはみなと観光バスの割引証を所有していると回答

3 回答の標本誤差について

(1) 標本誤差とは

標本誤差は、全数調査ではなく標本調査を行うことで生じてしまう標本統計量の誤差のことである。標本調査での信頼水準(※)は、一般的に 95%が用いられている。この場合、標本誤差は次の式で計算できる。

今回調査の標本誤差については(2)の表の通りである。例えば65歳以上 70 歳未満(293人)が回答している設問について、ある選択肢に回答した比率が 50%であった場合、回答比率の誤差範囲は±5.6%(44.4%～55.6%)の間にあることが推測できる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (1-P)}{n}}$$

N : 母集団数 (令和 6 年 9 月末時点の 18 歳以上の男女 80,542 人)

n : 標本数

P : 測定値 (回答の比率)

(※) 信頼水準 : 母数が標本統計量を中心とした誤差の範囲内に含まれる確率

(2) 年齢別標本誤差

65歳以上70歳未満、70 歳以上と分けてみた場合は、標本誤差は最大でも 5.6%である。

年齢	母数 (N)	回答数 (n)	5% または 95%	10% または 90%	20% または 80%	30% または 70%	40% または 60%	50% または 50%
65歳以上 70歳未満	5,702	293	±2.4%	±3.3%	±4.5%	±5.1%	±5.5%	±5.6%
70歳以上	23,029	676	±1.6%	±2.2%	±3.0%	±3.4%	±3.6%	±3.7%
全体	28,731	969	±1.3%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%

(3) 地区別標本誤差

回答数の少ない奥池地区において、標本誤差が大きくなっている。南芦屋浜地区も他の地区より少し高いが、他の地域は概ね同じぐらいの標本誤差となっている。

年齢	母数 (N)	回答数 (n)	5% または 95%	10% または 90%	20% または 80%	30% または 70%	40% または 60%	50% または 50%
1.奥池地区	537	15	±10.9%	±15.0%	±20.0%	±22.9%	±24.5%	±25.0%
2.山手小学校区 (奥池地区除く)	5,524	166	±3.3%	±4.5%	±6.0%	±6.9%	±7.3%	±7.5%
3.岩園小学校区	3,794	124	±3.8%	±5.2%	±6.9%	±7.9%	±8.5%	±8.7%
4.朝日ヶ丘小学校区	2,820	104	±4.1%	±5.7%	±7.5%	±8.6%	±9.2%	±9.4%
5.精道小学校区	3,663	120	±3.8%	±5.3%	±7.0%	±8.1%	±8.6%	±8.8%
6.宮川小学校区	2,976	86	±4.5%	±6.2%	±8.3%	±9.5%	±10.2%	±10.4%
7.打出浜小学校区	2,780	94	±4.3%	±6.0%	±7.9%	±9.1%	±9.7%	±9.9%
8.浜風小学校区	2,582	111	±4.0%	±5.5%	±7.3%	±8.3%	±8.9%	±9.1%
9.潮見小学校区 (南芦屋浜地区除く)	2,272	107	±4.0%	±5.6%	±7.4%	±8.5%	±9.1%	±9.3%
10.南芦屋浜地区	1,783	47	±6.1%	±8.5%	±11.3%	±12.9%	±13.8%	±14.1%
11.全体	28,731	974	±1.3%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%

4 分析観点

アンケートの分析においては、下記3つの視点から行う

- ①本事業は必要な事業なのか
- ②本事業における市民の割引証所有に対する意識
- ③本事業を持続可能な事業とするにはどうすればよいか

5 分析における留意事項

年齢別で回答者が決まっている質問に、非該当の方が回答されている場合等は、その設問の回答のみ、無効回答として取り扱う。

IV アンケート回答者の内訳

問 1 あなたの年齢(令和6年12月1日現在)は、以下のうちどれにあてはまりますか。1つだけ選んで数字に○をつけてください。(本アンケートは65歳以上の方を対象としています。65歳未満の方はお答えいただけません。ご了承ください)

(資料集:P6、7)

各グループとも、どの年齢層からも回答がある。本事業を利用している70歳以上を1000人、65歳～69歳を500人、無作為で抽出していることもあり、1番回答が多いのは70代の方であるが、80歳以上の方の回答も一定数ある。

単位:人

グループ	65歳～ 69歳	70歳～ 74歳	75歳～ 79歳	80歳～	計
グループ1 (70歳以上・バス運賃助成事業利用者)	0	151	205	152	508
グループ2 (70歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	0	64	43	61	168
グループ3 (65歳以上 70歳未満)	293	0	0	0	293
無作為抽出者全体	293	215	248	213	969
参考:一般回答者 (無作為抽出者以外)	152	139	133	149	573

問 2 あなたの性別は、以下のうちどれにあてはまりますか。1つだけ選んで数字に○をつけてください。

(資料集:P8、9)

どのグループとも女性が男性を上回っていて、おおむね男性 40%、女性 60%となっている。

単位:%

グループ	男性	女性
グループ1 (70歳以上・バス運賃助成事業利用者)	37.8	60.6
グループ2 (70歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	42.3	56.5
グループ3 (65歳以上 70歳未満)	41.0	58.0
無作為抽出者全体	39.5	59.1
参考:一般回答者 (無作為抽出者以外)	41.9	57.1

問 3 あなたは、現在どちらにお住まいですか。校区番号1～10から1つだけ選んで数字に○をつけてください。

(資料集:P10、11)

各地域別の回答数は異なるが、P9 の標本誤差より、奥池地区、南芦屋浜地区を除き、ほぼ人口に均一の回答がある。参考である一般回答者の回答数は、地域による差が見られる。

単位:人

小学校区	グループ1 (70 歳以上・バス運賃助成事業利用者)	グループ2 (70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	グループ3 (65 歳以上 70 歳未満)	全体 (無作為抽出者)	一般回答者 (無作為抽出者以外)
1.奥池地区	7	4	4	15	31
2.山手小学校区(奥池地区除く)	67	40	58	165	64
3.岩園小学校区	61	23	37	121	60
4.朝日ヶ丘小学校区	53	16	34	103	84
5.精道小学校区	61	19	40	120	114
6.宮川小学校区	33	21	32	86	69
7.打出浜小学校区	45	20	29	94	24
8.浜風小学校区	74	10	27	111	63
9.潮見小学校区(南芦屋浜地区除く)	79	9	19	107	37
10.南芦屋浜地区	28	6	13	47	27
計	508	168	293	969	573

単位:%

小学校区	グループ1 (70 歳以上・バス運賃助成事業利用者)	グループ2 (70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	グループ3 (65歳以上 70 歳未満)
1.奥池地区	46.7	26.7	26.7
2.山手小学校区(奥池地区除く)	40.6	24.2	35.2
3.岩園小学校区	50.4	19	30.6
4.朝日ヶ丘小学校区	51.5	15.5	33.0
5.精道小学校区	50.8	15.8	33.3
6.宮川小学校区	38.4	24.4	37.2
7.打出浜小学校区	47.9	21.3	30.9
8.浜風小学校区	66.7	9.0	24.3
9.潮見小学校区(南芦屋浜地区除く)	73.8	8.4	17.8
10.南芦屋浜地区	59.6	12.8	27.7
回答者の平均構成率	52.4	17.3	30.2

問 8 あなたのバス利用回数について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

(資料集:P20、21)

回答者のバスの利用回数は、各グループ間において異なる。

グループ1の中でも利用回数にバラつきがあり、1番多いのは「月 1～4 回」で 23.8%、2 番目は「月 5～9 回」で16.5%となっている。月10回未満(月5日以下)の方の回答を合わせると53.7%となり、半数を超える。

グループ2の中には、月 26 回以上(月 13 日以上)バスを乗る方が6.6%おり、本助成事業を利用せずにバスを利用されている方がいる。

無作為抽出者全体の月10回未満(月5日以下)の回答を合わせると63.4%となっている。

単位:%

乗車回数	グループ1 (70 歳以上・バス運賃 助成事業利用者)	グループ2 (70 歳以上・バス運賃 助成事業未利用者)	グループ3 (65歳以上 70 歳未満)	無作為抽出者 全体	一般回答者 (無作為抽出者 以外)
月 31 回以上	7.3	4.2	7.5	6.8	10.5
月26～30回	3.9	2.4	2.7	3.3	4.4
月21～25回	6.5	0	2.7	4.2	6.6
月15～20回	13.2	1.8	6.5	9.2	8.6
月10～14回	15.4	1.2	8.2	10.7	12.9
月5～9回	16.5	2.4	9.2	11.9	15.5
月 1～4 回	23.8	8.9	15.0	18.6	15.0
年数回程度	13.4	20.2	21.2	16.9	13.8
バスに乗らない	0	47.6	25.6	16.0	11.9